

VI. 昭和 40 年度の研究成果発表の状況

出 版 物

本所発行の研究発表、紹介の出版物としては次の 3 種がある。そのほかには生研案内（和文・英文）と年次要覧（いずれも年刊）がある。

東京大学生産技術研究所報告（略称：生研報告）

所員のまとまった研究成果を発表する。本文は和文または欧文とし、不定期発行で年間 10 種前後を刊行している。

生 産 研 究

研究の解説的紹介と速報的紹介とをかね、月刊で発行している。

以上は、本所の発行の分で、その他、随時に学会誌、協会誌その他の学誌に研究を発表している。

生研リーフレット

生研の研究成果で、実用化への手引とするため、写真中心に簡略に編集したもので、現在まで 100 種を発行している。

A. 東京大学生産技術研究所報告（不定期刊・研究発表誌）

昭和 40 年度（40 年 4 月～41 年 3 月）に発表したものを次表に示す。

巻 号	題 目	著 者	発行年月
14・3	自動車の運動に関する研究	亙理 厚	40. 7
14・4	電子ビーム雑音の研究（英文）	藤井 陽一	40. 8
14・5	砂礫堆の形成に関する水理学的考察	井口 昌平	40. 10
15・1	機械構造物の耐震設計に関する研究	佐藤 壽芳	40. 11
15・2	吊り屋根構造の設計とその問題点（英文） —東京オリンピック水泳場—	坪井 善勝・川口 衛	40. 11
15・3	金属の高温酸化における酸化層の微視的および 巨視的構造の役割	本間 禎一	40・12
15・4	高炉セメントコンクリートの研究	丸安 隆和・小林 一輔 阪本 好史	41・ 2
16・1	多環化合物の合成に関する研究	永井 芳男	41・ 3

B. 生 産 研 究

巻 号 (発行年月)	題 目	著 者
17巻 4 号 (40年 4 月)	本地堂の“鳴き竜”復元に関する研究（研究解説）	石井 聖光・平野 興彦

	「水文学」の定義と命名の経緯について (研究解説)	井口 昌平
	—国際水文学十年計画の発足にちなんで—	
	薄肉開断面材の弾性力学 (VI) (研究解説)	川井 忠彦
	アメリカでの研究所生活 (海外事情)	合田 周平
	—生体工学研究の現状—	
	流体継手の実験研究 (第2報) (研究速報)	石原 智男・森 恒
		伊藤 誠一
17巻5号	材料の表面と疲れ (1) (研究解説)	北川 英夫
(40年5月)	棒の縦衝撃と塑性波の伝ば (2) (研究解説)	山田 嘉昭
	薄肉開断面材の弾性力学 (VII) (研究解説)	川井 忠彦
	5孔トピー管における圧縮性の影響 (研究速報)	北野 正夫
17巻6号	船舶実験用水槽について (研究解説)	田宮 真
(40年6月)	組合せ応力をうける鉄筋コンクリートはり部材の終局せん断耐力理論および実験 (研究解説)	坪井 善勝・末永 保美
	その2 せん断力をうける鉄筋コンクリートはり部材のコンクリート部分の挙動についての基礎的な実験 No. 1	
	測定値を結んで曲線を描くときに便利な放物線の性質 (技術メモ)	大井光四郎
	低サイクル疲労試験装置 (研究速報)	高橋 幸伯・小畑 和彦
		佐野 謙一・能勢 義昭
	無方向性磁束計の試作 (研究速報)	沢井善三郎・森 浩一
		上村 昌司
17巻7号	キナクリドンの化学 (研究解説)	西 久夫
(40年7月)	振幅フィルターを用いた回折実験 (研究解説)	朝倉 利光・菊池 恭孝
	円筒形織成薄膜記憶素子を用いた高速記憶装置 (1) (研究解説)	渡部 弘之・松下 昭
	Cu-Cr 合金の復元現象について (研究速報)	西川 精一・長田 和雄
		小林 繁美
	建築音響の模型実験に用いる (500c/s~100 kc)	石井 聖光・朝生 周二
	1/3 オクターブバンドパスフィルターの試作 (研究速報)	伊藤 篤男
17巻8号	超音波鋳造 (研究解説)	朴 鎮熙・鳥飼 安生
(40年8月)	円筒形織成薄膜記憶素子を用いた高速記憶装置 (2) (研究解説)	渡部 弘之・松下 昭
	うなりをともなう減衰波形の解析法 (研究速報)	柴田 碧・原 亮一
	カオリン鉱物の水蒸気吸着 (研究速報)	福田 義民・高橋 浩
		西村 陽一
	鋼管ダクト分岐部の損失圧力および発生騒音について (研究速報)	勝田 高司・寺沢 達二
		板本 守正
17巻9号	レーザー光の顕微鏡への応用 (研究解説)	永井 昌平・朝倉 利光
(40年9月)	デジタル情報伝送における同期の一方式 (研究解説)	猪瀬 博・高木 幹雄
	グレンノーブル大学の制御学科 (海外事情)	高橋 安人
	試験溶鉱炉第16次操業について (1) (研究速報)	館 充・中根 千富
	—送風限界について—	館研究室員
	試験溶鉱炉第16次操業について (II) (研究速報)	館 充・桑野 芳一
	—主として炉頂ガスの連続分析について—	山村 武
17巻10号	PCM テレメータにおけるフレーム同期 (研究解説)	神子 富雄・安田 靖彦
(40年10月)		野村 民也
	最近の吸着装置 (研究解説)	河添邦太郎
	ガンタンネルによる極超音速気流の実験 (研究速報)	鎌田 元紀・玉木 章夫
	高周波焼入れした鋼中空試験片の腐食疲れ強さ (研究速報)	北川 英夫・堀内 正明

	—高周波焼入れ銅の疲れ強さの一検討— 微動による工作機械の動的特性の測定 (研究速報) 定常流停止後の応力緩和 Na-Polyacrylate 溶液の最長緩和機構 (研究速報)	細井 清忠 佐藤 壽芳・武藤 敏昭 黒岩 城雄・中村 亦夫
17巻11号 (40年11月)	公害研究会について (巻頭言) 耐震工学研究の現況 (特集) 機械系構造物の耐震設計 (特集)	岡本 舜三 岡本 舜三 柴田 碧・佐藤 壽芳
防災・公 害特集	—原子力発電所に関する研究を中心として— 高層および地下建築の防災対策 (特集) 公害に関する法的規制の現状と問題点 (特集) 水質汚染について (特集) 大気汚染問題の現状 (特集)	星野 昌一 潮見 俊隆 木村 恒行 菊池 真一・鈴木 伸 江守 一郎・横山 茂士 斎藤 治彦 菊池 真一・鋤柄 光則 佐藤 壽芳・武藤 敏昭 永井 芳男・長沢孝太郎
17巻12号 (40年12月)	回転速度変動の無接触測定装置 (研究解説) 芳香族ジアゾニウム塩の光分解 (研究解説) 地震動の非正常性の一取扱法について (研究速報) 4-[4-オキシナフチル-(1)]-ベンゾアントロンの合成、 およびリンモリブデン酸アンモニウムによる多環縮合フ エノールの呈色 (研究速報) ジエン化合物のイオンテロメル化反応 (研究速報)	浅原 照三・木瀬 秀夫 郷 東静 岡本 舜三 北川 英夫 棚沢 一郎 大井光四郎 西川 精一・長田 和雄 小林 繁美 浅原 照三・田中 貞良 藤崎 善耀 武藤 義一・和田 芳裕 正岡 秀夫 永井 芳男・松尾 昌幸 高島 松雄 坂井 徹郎・板橋 正雄 原 善四郎 坪井 善勝 坪井 善勝・名須川良平 永井 芳男・後藤 信行 上野 恒明 斎藤 恒成・上満 信男 富永 五郎 斎藤 恒成・辻 泰 武藤 義一・高田 芳矩 松永 正久 越 正毅 谷 忠昭・菊池 真一
18巻1号 (41年1月)	年頭にあたって (巻頭言) 材料の表面と疲れ (2) (研究解説) MHD 発電について (研究解説) 第2回実験力学国際会議のことなど (海外事情) ニッケルメッキ層の組織と再結晶 (研究速報) アクリロニトリルのオリゴマー (研究速報)	浅原 照三・木瀬 秀夫 郷 東静 岡本 舜三 北川 英夫 棚沢 一郎 大井光四郎 西川 精一・長田 和雄 小林 繁美 浅原 照三・田中 貞良 藤崎 善耀 武藤 義一・和田 芳裕 正岡 秀夫 永井 芳男・松尾 昌幸 高島 松雄 坂井 徹郎・板橋 正雄 原 善四郎 坪井 善勝 坪井 善勝・名須川良平 永井 芳男・後藤 信行 上野 恒明 斎藤 恒成・上満 信男 富永 五郎 斎藤 恒成・辻 泰 武藤 義一・高田 芳矩 松永 正久 越 正毅 谷 忠昭・菊池 真一
18巻2号 (41年2月)	バリウム—スルホナゾⅢキレートを示す第4アン モニウム塩滴定法 (研究速報) 新しい化合物の合成 (研究速報) スポット・ダイアグラムを用いた解像力の計算 (研究解説) 瞬間抵抗焼結法の研空 (研究解説) サウジアラビア (海外事情) 東京カテドラル聖マリア大聖堂の構造設計 (研究速報) p-トリール酸アミドの Hofmann 分解 (研究速報) Thermal Desorption による残留気体の分析 (研究速報)	武藤 義一・和田 芳裕 正岡 秀夫 永井 芳男・松尾 昌幸 高島 松雄 坂井 徹郎・板橋 正雄 原 善四郎 坪井 善勝 坪井 善勝・名須川良平 永井 芳男・後藤 信行 上野 恒明 斎藤 恒成・上満 信男 富永 五郎 斎藤 恒成・辻 泰 武藤 義一・高田 芳矩 松永 正久 越 正毅 谷 忠昭・菊池 真一
18巻3号 (41年3月)	B-A 型電離真空計と水素の反応 (研究速報) クーロメトリーの液体クロマトグラフへの応用 (研究解説) 遠心バレル研摩法 (研究解説) 信号系の最適オフセットパタンの近似解 (研究速報) シアニン系写真増感色素の励起エネルギーの計算 (研究速報)	武藤 義一・高田 芳矩 松永 正久 越 正毅 谷 忠昭・菊池 真一

C. 生研リーフレット

No.	題 目	研究者名
92	レーザ干渉計	久保田 広
93	圧延シミュレータ	鈴木 弘
94	自動車の運動性能研究のための試験台	平尾 収
95	位相変調光復調用干渉計	斎藤 成文・木村 達也
96	多重モード水晶フィルタ	尾上 守夫
97	薄板バネの水素脆化試験装置	西川 精一
98	TiO ₂ 系複合酸化合物による高感度電子写真感光紙の研究	野崎 弘・飯田 武揚
99	多目的音響実験室	勝田 高司・石井 聖光
100	東京大学生産技術研究所千葉実験所共同利用施設	井口 昌平

D. 著書および所外の学術雑誌などに発表したもの

—表題は原文表題，翻訳表題の順に示す—
 —各項目末尾の数字，文字は，順に巻(太字)，号，ページ，発行所名，年，月(西暦)を示す。巻のないものは，文字でその呼称を示す—

第 1 部

教授 久保田 広 (Hiroshi KUBOTA, Professor)

Measurement of Optical Transfer Function—レスポンス関数の測定—: Japanese. J. Appl. Phys. 4, 1, 137~145, 1965. 9.

教授 一色 貞文 (Sadabumi ISSIKI, Professor)

Temperature Change of Specimens at the Beginning of Oxidation and its Kinetic Effects—酸化反応開始時の温度変化の測定とその反応速度への影響—(本間禎一と共著): Trans. JIM, 6, 3, 146~150, 1965.

Rosenburg 反応中断法による酸化層内点欠陥濃度の測定—Measurement of the Point Defect in Oxide Layer by Means of the Rosenburg's Interrupted Reaction Method—(本間禎一と共著): 第 56 回日本金属学会講演概要, pp 35~36, 1965.

教授 大井光四郎 (Koshiro OI, Professor)

衝撃力の電子計測—Electronic Measurement of Impulsive Force—: 精密機械, 31, 7, 557~561, 1965, 7.

Transient Response of Bonded Strain Gages —歪計の過渡応答性—: Pre-print of the second international congress on experimental mechanics, Sep. 1965, Washington D. C, U. S. A.

教授 鳥飼 安生 (Yasuo, TORIKAI, Professor)

超音波による応力解析について—On the Stress Analysis Utilizing Ultrasonic Wave—(李孝雄と共著): 音響学会研究発表会講演論文集, 167~168, 1965. 5

超音波による応力ならびに異方性の測定—Measurements of Stress and Anisotropy by Ultrasonic Waves—(李孝雄と共著)：音響学会研究発表会講演論文集，5～6，1965. 10.

教授 富永 五郎 (Goroh, TOMINAGA, Professor)

プローブ法—Probe Method—：応用物理，34，11，833，1964.

教授 山田 嘉昭 (Yoshiaki, YAMADA, Professor)

引張り試験に関連して考えていること（とくに切欠き試験片と異方性について）—Tensile Testing of Sheet Metals, with Particular Emphasis on the Use of Notched Strip for Evaluation of Anisotropy—：塑性と加工，6，58，666～673，1965. 11.

塑性不安定について—On the Tensile Plastic Instability—(青木 至と共著)：第16回塑性加工連合講演会前刷集，109～112，1965. 11.

高速引張り試験機(試作)と1～2の実験結果について—A High-Speed Tensile Testing Machine and Some Experimental Results—(輪竹千三郎・御崎孝義と共著)：第16回塑性加工連合講演会前刷集，125～128，1965. 11.

塑性加工学 (I)，(II)—Translation of W. Johnson and P. B. Mellor's 'Theory of Plasticity for Mechanical Engineers' (清田堅吉・葉山益次郎と共訳)：培風館，1965. 9 および 10.

塑性加工性(板材の成形性)試験法—Testing of Formability of Sheet Metals—：機械工作，13，91，9～13，1966. 1.

助教授 小瀬 輝次 (Teruji, OSE, Associate Professor)

ルビーレーザーの空間的コヒーレンス—Spatial Coherence of Ruby Laser Beam—(佐々木秀行と共著)：応用物理，34，9，642～647，1965. 9.

A Measuring Instrument for Optical Transfer Function. —By Means of Electrical Frequency Analysis Method—，—電気的フーリエ分析法によるレスポンス関数測定機—(高島松雄，山口意颯男と共著)：Japanese App. Phys. 4, Supplement 1, p. 154～159, 1965. 10.

助教授 北川 英夫 (Hideo, KITAGAWA, Associate Professor)

高周波焼入れ材のX線応力測定について—On the Stress Analysis by X-ray Method on the Steels Hardened by High-Frequency Induction Heating (高橋秀雄，堀内正明と共著)：日本非破壊検査協会，NDI 資料 4204，1965. 4.

腐食性その他の環境中での疲れ—Fatigue in the Corrosive or other Circumstances—：日本學術振興会第97委員会前刷，1965. 7 および 1965. 9.

金属材料疲れ強さの設計資料 (II) 表面効果—The Standard Design Data of Fatigue of Metals (II) Surface Effects—(分担執筆)：日本機械学会，1965. 9.

Invariability, Hesitation or Restoration of Damage in Wet-Dry Fatigue Process —Effect

of Corrosion on the Progress of Fatigue Fracture, studied in Relation to the Behaviors of Corrosion Fatigue Cracks— Wet-Dry 2 段階疲れ過程における疲れ被害の不変, 停留および回復—疲れ破壊過程への腐食の影響に関する, 腐食疲れき裂の挙動を考慮した研究—: Preprint for the 2nd International Congress on Experimental Mechanics in Washington, D. C., 1965. 9.

レール溶接部の疲れ強さ—Fatigue Strength of Welds of Rail, (大井一郎, 堀内正明, sion Fatigue Cracks—(堀内正明と共著): 日本機械学会第 43 期全国大会講演前副集, No. 141, p. 193, 1965. 10.

腐食疲れき裂をもつ鋼材の疲れ強さ—Fatigue Strength of the Steel Containing Corrosion Fatigue Cracks—(堀内正明と共著): 溶接学会第 1 回溶接構造の疲労に関するシンポジウム論文集, 1966. 2.

耐食アルミニウム合金 5083 溶接部の疲れ強さおよび腐食疲れ強さ—Fatigue Strength and Corrosion Fatigue Strength of the Welds of Anti-corrosive Aluminum Alloy 5083—(袋田和之, 西垣達雄と共著): 溶接学会第 1 回溶接構造の疲労に関するシンポジウム論文集, 1966. 2.

助教授 成瀬 文雄 (Fumio NARUSE, Associate Professor)

Rm/Re. $1/R_m$ が小さく, 磁場が強いときの MHD Aligned Flow—Magnetohydrodynamic Aligned Flow with Very Strong Field—: 日本物理学会第 10 回応用数学・力学講演会予稿集, 45, 1965. 7.

Hall 効果があるときのよどみ点付近の流れ—Magnetohydrodynamic Flow near a Stagnation Point., with Hall Effect—: 第 15 回応用力学連合講演会論文抄録集, 33~34, 1965. 9.

助教授 辻 泰 (Yutal a TUZI, Associate Professor)

Determination of Thermal Accommodation of Translational Energy of Vapors at a Glass Surface —ガラス表面における蒸気分子の並進運動のエネルギーに関する熱的適応係数の測定—(J. A. Morrison と共著): J. Vac. Sci. and Tech., 2, 3, 109~112, 1965.

助教授 根岸 勝雄 (Katsuo, NEGISHI, Associate Professor)

Diffraction of Light by Ultrasonic Waves of Finite Amplitudes—有限振幅の超音波による光の回折—(能本乙彦と共著): Acustica 15, 4, 223~235, 1965.

講師 伯野 元彦 (Motohiko HAKUNO, Lecturer)

Response of a Multi-Story Frame Structure to Random Excitation —多自由度振動系のランダム振動—(篠塚正宣, 板垣浩と共著): Technical Report No. 29, Dep't of Civil Engineering, Columbia University, New York, 1966. 2.

講師 本間 禎一 (Teiichi HOMMA, Lecturer)

Temperature Change of Specimens at the Beginning of Oxidation and its Kinetic Effects —酸化反応開始時の温度変化の測定とその反応速度への影響—(一色貞文と共

著): Trans. JIM, 6, 3, 146~150, 1965.

Rosenburg 反応中断法による酸化層内点欠陥濃度の測定—Measurement of the Point Defect in Oxide Layer by Means of the Rosenberg's Interrupted Reaction Method—(一色貞文と共著): 第 56 回日本金属学会講演概要, pp 35~36, 1965.

助手 朝倉 利光 (Toshimitsu ASAKURA, Assistant)

切断したルビーのレーザー発光状態—Ruby Laser Rod; Its Quality and Radiation Pattern—(藤原裕文と共著): 応用物理, 34, 5, 343~349, 1965. 5.

ホログラフィーの誕生—Development in Holography—: 自然, 20, 6, 38~50, 1965. 6.

ホログラムの実験—Experiments in Hologram—: 自然, 20, 8, 50~52, 1965. 8.

Quasi-Optics (準光学) とその周辺—Quasi-Optics and Its Related Field—: 光学技術コンタクト, 3, 3, 2~8, 1965. 7.

光学情報の処理 (II), コヒーレント・ビームの役割—Processing of Optical Information (II), Properties of Coherent Beam—: 第 4 回サマースクール論文集(応用物理学会・光学懇話会主催), 1~40, 1965. 8.

A Bibliography in Coherence and Its Related Fields—コヒーレンス関係文献題目集—: 物理学論文選集「コヒーレンス」(日本物理学会発行) 209~234, 1965. 9.

Diffraction Anomaly of Various Types of Extended Source, By Polarizing Microscope with Crossed Nicols—色々な形の有限な光源の異常回折像(直交ニコルをもつ偏光顕微鏡)—(鈴木恒子と共著): Japanese. J. Appl. Phys. 4, Suppl. 1, 287~293, 1965.

9. ホログラムの光学—Optics of Hologram—: 光学ニュース No. 81, 2~10, 1965. 10.

不均一な位相, 振幅分布をもつ開口による回折像, (V) 振幅フィルターを用いた回折実験—Diffraction Patterns by Non-Uniform Phase and Amplitude Aperture Illumination, V. Diffraction Experiment with Amplitude Filter—(菊池恭孝と共著): 応用物理 34, 11, 795~801, 1965. 11.

光の回折実験—Diffraction Experiments in Optics—(菊池恭孝と共著): 科学の実験 17, 1, 39~44, 1966. 1.

光のゆらぎの相関—Correlation of Intensity Fluctuation—: 日本物理学会誌, 21, 1, 36~39, 1966. 1.

Maréchal 収差許容量の応用—Applications of Maréchal Method of Aberration Tolerance Values—: 応用物理, 35, 3, 1966. 3.

助手 高島 松雄 (Matsuo TAKASHIMA, Assistant)

A Measuring Instrument for Optical Transfer Function by means of Electrical Frequency Analysis Method—レスポンス関数測定装置—(小瀬, 山口と共著): Japan. J. Appl. Phys. 4, Suppl. 1, 154~159, 1965. 9.

The Aberration Synthesizer—可変収差レンズ—(松居吉哉と共著): Japanese. J. Appl. Phys. 4, Suppl. 1, 234~237, 1965. 9.

第 2 部

教授 鈴木 弘 (Hiromu SUZUKI, Professor)

高炭素鋼線材の捻回試験について—On Torsion Tests of High Carbon Steel Wire—
(木内学と共著): 第 16 回塑性加工連合講演会前刷, p. 201, 1965, 11.

教授 平尾 収 (Osamu HIRAO, Professor)

操舵系の動特性の改善—Improvement of the Handling Characteristics of Vehicle—(山
田尚之と共著): 自動車技術会昭和 40 年度春季講演会前刷集.

自動車の運転車が安全を保つメカニズムについて—Mechanism for Maintaining Safety
of Auto-drivers—: 自動車技術, 19, 6, 1965.

自動車に関する研究問題—Problems yet to be researched on Motor Vehicle—: 日本機
械学会第 247 回講演会教材, 1966. 1.

自動車用機関性能論—Theory of Engine Performances for Automobile—: 内燃機関,
1966, 1, 2, 3月号, 山海堂.

工学者からみた交通災害の要素—Analytical Studies on Traffic Accidents Considering
as Engineering Problems: 人と車, 全日本交通安全協会, 1965. 7.

教授 亙理 厚 (Atsushi WATARI, Professor)

摩擦による振動—Vibrations Caused by Dry Friction—(第 5 報, 杉本と共著): 機械学
会定時総会講演会前刷, 1965. 4.

自動車の操縦性安定性に関する研究(第 5 報)—Study on the Stability of Automobiles—:
自動車技術会総会講演会前刷, 1965. 5.

自動車の振動, 騒音および乗心地—Vibration, Noise and Riding Quality of Automob-
iles—: 機械学会第 247 回講習会教材, 1966. 1.

教授 水町 長生 (Nagao MIZUMACHI, Professor)

ラジアルガスタービンの研究 (No. 2)—Researches on the Radial Gas Turbine(No. 2)
—: 日本機械学会ガスタービン研究分科会研究成果報告書, 日本機械学会, 1966. 3.

教授 田宮 真 (Shin TAMIYA, Professor)

非対称横揺れの性質について (その 1)—On the Characteristics of Unsymmetrical
Rolling of Ships—: 造船協会論文集, 118, pp 57~65, 造船協会, 1965. 12.

船の安全運行に関する 2~3 の問題—Considerations on the Safety of Ship Navigation
—: 船の科学, 18, 7, 149~154, 船舶技術協会, 1965. 7.

教授 松永 正久 (Masahisa MATSUNAGA, Professor)

二硫化モリブデンの二重電子回折像—Double Electron Diffraction Pattern on Moly-
bdenum Disulfide—(星本健一と共著): 第 12 回応用物理学連合講演会予稿, 7 p-E-8,

p. 144, 1965. 4.

加工面の性質—Properties of Polished Surfaces—: 砥粒加工技術便覧, p. 744, 日刊工業, 1965. 6.

振動式バレル研磨のバレル内における動圧力について—On Dynamic Force in a Tub During Vibratory Barrel Finishing—(萩生田善明・内藤敏と共著): 金属表面技術協会第 31 回学術講演会前刷, p. 53, 1965. 6.

Vibratory Finishing—Fundamental Research—振動式バレル研磨に関する基礎研究—(萩生田善明と共著): Metal Finishing (A) 63, 9, 52, 1965. 9; 63, 10, 88, 1965. 10.

教授 大島康次郎 (Yasujiro OSHIMA, Professor)

Control System for Automatic Automobile Driving—自動車運転の自動制御—(Co-authors: E. Kikuchi, M. Kimura & S. Matsumoto): Preprint of IFAC Tokyo Symposium, 1965. 8.

ねじ利用精密直動形検出器について—A Fine Linear Motion Detector Utilizing Screw.—(木村浩哉と共著): 第 8 回自動制御連合講演会前刷, 1965. 11.

サーボ機構—Servomechanism—(荒木献次と共著): オーム社, 1965. 9.

教授 石原 智男 (Tomoo ISHIHARA, Professor)

流体継手の研究 (第 3 報)—Experimental Studies on Fluid Couplings (3rd Report)—(森 恒・外 1 名と共著): 日本機械学会第 42 期通常総会学術講演会前刷, 1965. 4.

ターボ式流体伝動装置の非定常特性 (第 1 報)—Nonsteady Characteristics of Hydrodynamic Drive (1st Report)—(江守一郎と共著): 日本機械学会・精機学会東海支部講演会前刷, 1965. 9 および日本機械学会論文集, 32, 235, 1966. 3.

教授 橋 藤雄 (Fujio TACHIBANA, Professor)

伝熱論—Heat Transmission—(秋山 守・岡本芳三・森下輝夫と共著): コロナ社, 1965. 10.

助教授 植村 恒義 (Tsuneyoshi UYEMURA, Associate Professor)

超高速度カメラの試作研究 (第 9 報)—Research on New Ultra High-Speed Camera (Ⅷ)—MLD-4 型カメラの製作—伊藤寛治・北原時雄・日本光学工業 KK 高須芳雄・吉田庄一郎・浜 実と共著): 第 12 回応用物理学会関係連合講演会予稿集, p. 17~18, 1965. 4.

超高速度カメラの試作研究 (第 10 報)—Research on New Ultra High-Speed Camera (X)—MLD-4 型カメラ用超高速小型タービンの開発—伊藤寛治・北原時雄・日本光学工業 KK 高須芳雄・吉田庄一郎・浜 実と共著): 第 12 回応用物理学会関係連合講演会予稿集, p. 19~20, 1965. 4.

高速度写真によるルビーレーザー加工機構の解析 (第 2 報)—The Drilling Mechanism of Ruby Laser by High-Speed Photography (II)—(山本芳孝・宮崎俊行・日本電気

- K. K. 基礎研究所, 林 一雄・猪脇秀一・丸山光弘と共著): 第 12 回応用物理学関係連合講演会予稿集, p. 27~28, 1965. 4.
- 高速度写真による金属切削機構の解析研究 (第 3 報) —Research on the Mechanism of Metal Cutting by High-Speed Photography (III)—(山本芳孝・三菱金属鋳業 K. K. 中村裕道・永岡義雄と共著): 第 12 回応用物理学関係連合講演会予稿集, p. 30~31, 1965. 4.
- ロケットの光学的追跡に関する研究 (第 12 報) —Research on Optical Tracking for Sounding Rockets (XII)—(田中勝也・金沢和夫・喜久里 豊と共著)—: 第 12 回応用物理学関係連合講演会予稿集, p. 32~33, 1965. 4.
- 高速度写真によるルビーレーザー加工機構の解析研究 (第 1 報) —Research on the Drilling Mechanism of Ruby Laser by High-Speed Photography (I)—(山本芳孝・宮崎俊行・日本電気 K. K. 基礎研究所・林 一雄・猪脇秀一・丸山光弘と共著)—: 昭和 40 年度精機学会春期大会講演会予稿集, p. 79~80, 1965. 4.
- 超高速度カメラの試作研究 (第 9 報) —Research on New Ultra High-Speed Camera (VIII)—MLD-4 型および MLD-7 型カメラの製作—(伊藤寛治・金沢和夫・北原時雄・日本光学工業 K. K. 高須芳雄・吉田庄一郎・浜 実と共著)—: 昭和 40 年度精機学会春期大会講演会予稿集, p. 145~146, 1965. 4.
- 超高速度カメラの試作研究 (第 10 報) —Research on New Ultra High-Speed Camera (X)—MLD-4 型カメラ用超高速小型タービンの開発—(伊藤寛治・北原時雄・日本光学工業 K. K. 高須芳雄・吉田庄一郎・浜 実と共著)—: 昭和 40 年度精機学会春期大会講演会予稿集, p. 147~148, 1965. 4.
- 超高速回転体に関する研究 (第 3 報) —Research on Ultra High-Speed Rotators (III)—(吉沢徹と共著)—: 昭和 40 年度精機学会春期大会講演会予稿集, 149~150, 1965. 4.
- ロケットの光学的追跡に関する研究 (第 7 報) —Research on Optical Tracking for Sounding Rockets (VII)—(田中勝也・金沢和夫・喜久里 豊と共著)—: 昭和 40 年度精機学会春期大会講演会予稿集, p. 151~152, 1965. 4.
- 高速度写真による金属切削機構の解析研究 (第 4 報) —Research on the Mechanism of Metal Cutting by High-Speed Photography (IV)—(山本芳孝・三菱金属鋳業 K. K. 中村裕道・永岡義雄と共著): 昭和 40 年度精機学会春期大会講演会予稿集, p. 61~62, 1965. 4.
- コマ撮りカメラ—High-Speed Framing Cameras—: 応用物理, 34, 3, 218, 1965. 3.
- 高速度写真による電子ビーム加工機構の解析研究—Research on the Drilling Mechanism of Electron Beam by High-Speed Photography—(山本芳孝・日本電気 K. K. 黒田秀郎・高田 允と共著): 昭和 40 年度精機学会秋期大会講演予稿集, p. 211~212, 1965. 11.
- 高速度カメラ—High-Speed Framing Cameras—: 光学技術コンタクト, 3, 7, p2~7, 1965. 11.

② 高速度写真技術と応用—High-Speed Photography and Applications—: 日刊工業新聞社主催, 新しい印写技術と応用講習会テキスト, 1965. 12.

助教授 柴田 碧 (Heki SHIBATA, Associate Professor)

部分境界, 分岐を有する梁の振動特性計算法 (藤井澄二ほかと共著): 日本機械学会第 43 期通常総会学術講演会前刷, No. 132, 9, 1965. 4.

連続体の振動・衝撃 (分担): 機械工学年鑑, p. 39, 1965. 7.

配管系耐震設計法の総合ほか (日本機械学会耐震設計法研究分科会にて分担): 原子炉配管系の耐震設計法に関する研究成果報告書 (昭和 38 年度): p. 196 ほか, 1965. 11.

助教授 森 政弘 (Masahiro MORI, Associate Professor)

スラリー用レベルスイッチの使用例について—Example on Applications of Level Switches for Slurry—(渡辺金之助と共著): 第 8 回自動制御連合講演会, 1956. 11.

助教授 川井 忠彦 (Tadahiko KAWAI, Associate Professor)

平板の曲げ, 振動および座屈問題に対するエネルギー法の一般的適用法について (I) および (II)—On the Method of Application of Energy Principles to Problems of Elastic Plates (I) & (II)—: 造船協会論文集, Vol. 117, 1965. 6, Vol. 118, 1965. 12.

平板の影響函数とその工学的応用に関する研究, (I), (II)—Studies on the Influence Functions of Elastic Plates and their Application to Engineering Problems (I) & (II)—: 造船協会論文集, Vol. 117, 1965. 6, Vol. 118, 1965. 12.

連続梁の自由振動について (第 1 報) —On the Natural Vibration of Continuous Beams (I)—(航空宇宙技研多田林と共著): 日本機械学会講演前刷集, No. 141, 1965. 10.

有孔板の振動について—On the Lateral Vibration of a Perforated Plate—(航空宇宙技研・泉と共著): 日本機械学会講演前刷集, No. 145, 1965. 10.

Plastic Analysis and Minimum Weight Design of Multi-Story Frames—高層骨組の塑特設計および最小重量設計—: 1965 Summer Conference on Plastic Design of Multi-Story Frames, Lehigh University, Bethlehem Pennsylvania, U. S. A., Aug. 24–Sept. 2, 1965. 電子計算機による骨組構造の最小重量設計—Minimum Weight Design of Framed Structures by Means of Electronic Digital Computers—: 第 283 回工経連講座「最近の塑特設計とその応用」テキスト, 1965. 12.

助教授 佐藤 壽芳 (Hisayoshi SATO, Associate Professor)

建築機械構造物系の地震時応答について—On the Response of a Building-Machine Structure Systems to Strong Motion Earthquake—: 日本機械学会第 42 期通常総会前刷, 1965. 4.

上記と同名論文: 日本機械学会論文集, p. 29, 32, 233, 1966. 1.

原子炉配管系の耐震設計法に関する研究成果報告書 (昭和 38 年度) (柴田碧他数名と分

担): p 18~34, 105~162, 188~195, 210~215. 日本機械学会, 1965. 11.

Report of a Study on a Method of Aseismic Design for the Piping System of Atomic Power Plant.

講師 梅谷 陽二 (Yoji UMETANI, Lecturer)

General Method for the Analysis of Complicated Plant Characteristics—複雑なプラント特性特解析の一般的方法—: Preprint for IEAC Tokyo Symp., VI-5, VI-45~56, 1965. 8.

晶析装置の制御—Automatic Control of a Crystallizer—: 化学工学, 29, 9, 727~732, 1965.

助手 合田 周平 (Shuhei AIDA, Assistant)

がん患者の最適治療決定の一方法—Discussion on Decision of Optimal Medical Treatment for Cancer (R. S. Ledley と共著) —: 計測と制御, 4, 5, 332~339, 計測自動制御学会, 1965. 5.

神経細胞モデル IMICTRON の解析-I—Analysis of Artificial Neuron, IMICTRON —: 計測自動制御学会学術講演会前刷, No. 524, 1965. 7.

A Dynamic Visual-Pattern-Recognition Network of Artificial Neurons—神経細胞モデルによるダイナミックなパターン認識 (G. C. Cheng と共著)—: Proc. of the 6th Int. Conf. on Medical Electronics & Biological Eng. 24-9, 1965. 8.

神経細胞モデル IMICTRON の解析-II—Analysis of Artificial Neuron, IMICTRON —: 計測自動制御学会連合講演会前刷, No. 319, 1965. 11.

技官 西山 正一 (Masakazu NISHIYAMA, Technician)

フェシング材料などの摩擦特性—Characteristics of Friction of Facing Materials— (田村和久, 西村与志夫, 高田保郎と共著): 自動車技術会総合講演会前刷, 1965. 5.

第 3 部

教授 藤高 周平 (Shuhei FUJITAKA, Professor)

電力系統の信頼度—Reliability of Electric Power System—: 日立評論, 47, 10, 1965. 10.

教授 森脇 義雄 (Yoshio MORIWAKI, Professor)

並列遅延線路式多チャネル波高分析器—A Multichannel Pulse Height Analyzer with Delay Line Memories—(高羽須雄・生沼徳二・木下英実と共著): 昭和 40 年電気 4 学会連合大会論文集, 351, 1965. 4.

トンネルダイオードを用いたタイムアナライザ—A Time Analyzer with Tunnel Diodes as Circuit Elements—(高羽禎雄・富岡幹雄と共著): 昭和 40 年電気 4 学会連合大会論文集, 352, 1965. 4.

原子核実験におけるオンライン計算機—On Line Computers in Nuclear Experiments: エレクトロニクス・ダイジェスト, 81, 55, 1965. 9.

記憶容量が大きくアクセスタイムが短い遅延線路記憶装置とその波高分析器への応用—A Delay Line Memory with Large Memory Capacity and Short Access Time and its Application to Pulse Height Analyzers—(高羽禎雄・木下英実と共著): 昭和 40 年度電気通信学会論文集, 129, 1965. 11.

電気回路—Electric Circuits—(斎藤正男と共著): 朝倉書店応用数学力学講座, 13, 1965. 11, 10. 発行.

日米一次刊行物編集者会議に出席して—On the U. S.—Japan Primary Editors' Meeting: 電気学会雑誌, 86, 1, 3, 1966. 1.

日米一次刊行物編集者会議に出席して—On the U. S.—Japan Primary Editors' Meeting: 電気通信学会雑誌, 49, 1, 51, 1966. 1.

日米学術情報交換とテレビジョン学会誌—Exchange of Primary Information between U. S. and Japan and the Status of the Jour. Inst. Television Eng. of Japan: テレビジョン学会雑誌, 20, 1, 2, 1966. 1.

教授 沢井善三郎 (Zenzaburo SAWAI, Professor)

SCR を用いた抵抗溶接機用周波数変換器—Frequency Changer for Resistance Welding using SCR—(原島文雄と共著): 電気四学会連合大会講演論文集〔Ⅲ〕, 1290, 1965. 4.

試作電磁誘導導について—Electromagnetic Runner Constructed for Experiment—(稲葉博, 川瀬太郎と共著): 電気四学会連合大会講演論文集, 1965. 4.

リレー要素の線形化による 2 相サーボモータの駆動—Two-phase Servomotor Drive by Linearization of Relay Element—(原島文雄・内田克己と共著): 計測自動制御学会第 4 回学術講演会予稿集, 241, 1965. 7.

スイッチ素子によって駆動された 2 相サーボモータの特性について—Operating Characteristics of Two-phase Servomotor Driven by Switching Devices—(原島文雄と共著): 第 8 回自動制御連合講演会前刷, 1965. 11.

教授 斎藤 成文 (Shigebumi SAITO, Professor)

光エレクトロニクス—Opto-Electronics—(藤井陽一と共著): 電気学会誌 85, 7, 922, 1965. 7.

フォト・ダイオードの Req—Equivalent Resistance of Photodiode—(水村晴治と共著): 昭和 40 年度電気通信学会全国大会, 1965. 11.

レーザ用ねずみのす電力計の試作—Rat's Nest Type Power Meter for Laser Light—

- (川上友暉・藤井陽一と共著): 昭和 40 年度電気通信学会全国大会, 1965. 11.
- レーザーの通信および情報処理への応用—Laser Communication and Information Processing—: レーザ入門, 電気通信学会, 1965. 10.
- 宇宙空間の利用—Utilizing the Space—: 宇宙, 東大出版会, 1965. 10.
- Giant Pulse Laser—ジャイアント・パルス・レーザー(T. Kurashige, S. Fukushima, T. Oguchi, Y. Fujii と共著): 第 6 回ロケットシンポジウム (ISTS), 1965. 11.
- 136-137 Mc/s Tracking Antenna Mounted on the Surface of Cassegrain Sub-dish—カセグレン・アンテナのサブ・ディッシュ上にマウントした 136-137 Mc/s のトラッキングアンテナ—(N. Hasebe, S. Saito, T. Namura と共著): 第 6 回ロケットシンポジウム, 同上.

教授 渡辺 勝 (Masaru WATANABE, Professor)

OKITAC によるロケットの性能計算—OKITAC and Rocket Development—沖電気時報, 32, 2, 1~9, 1965. 4.

教授 尾上 守夫 (Morio, ONOE, Professor)

高次振動を考えに入れた結合振動理論—Coupling Theory Including the Effect of Higher Modes of Vibration—(倉地正と共著): 昭和 40 年電気四学会連合大会講演論文集, No. 1346, 1965. 4.

相並んだエネルギーとじこめ共振子間の結合—Elastic Coupling Between Two Resonators Vibrating in Energy Trapped Mode—(十文字弘道と共著): 昭和 40 年電気四学会連合大会講演論文集, No. 1345, 1965. 4.

板波の減衰の周波数特性—Frequency Dependence of Attenuation of Plate Waves—(山田博章と共著): 音響学会講演論文集, No. 2-1-14, 1965. 5.

超音波遅延回路における遅れエコーの解析—Analysis of Secondary Echoes in Ultrasonic Delay Lines—(望月雄蔵と共著): 音響学会講演論文集, No. 2-1-15, 1965. 5.

セラミック・フィルター—Ceramic Filters—放送技術, 17, 10, p. 67~72/97, 1964. 10.

高結合セラミック振動子の測定法—Method for Measuring Piezoelectric Ceramic Vibrators with High Electromechanical Coupling Factor—(十文字弘道と共著): 通信学会電子回路部品材料研究会資料, 1965. 8.

エネルギーとじこめ圧電共振子の解析—Analysis of Piezoelectric Resonators Vibrating in Trapped Energy Modes—(十文字弘道と共著): 電気通信学会雑誌, 48, 1574, 81, 1965. 9.

渦流検査用コイルの特性評価—Evaluation of Characteristics of Probe Coils for Eddy Current Testing—(市川初男・竹内久満と共著): 日本非破壊検査協会秋季学術講演会, III-1, 1965. 10.

分散型遅延回路測定用パルス発生器—Pulse Generator for Measuring Dispersive Delay Line—(高木幹雄, 藤本洋と共著): 昭和 40 年電気通信学会全国大会, No. 592, 1965. 11

エネルギーとじこめ型圧電共振子における副共振の抑圧—Suppression of Unwanted Modes in Piezoelectric Resonators Vibrating in Energy Trapped Mode—(十文字弘道・小堀直正と共著): 昭和 40 年電気通信学会全国大会, No. 116, 1965. 11.

エネルギーとじこめ型多重モード・フィルタの試作—Development of Multiple Mode Filters Employing Energy Trapped Resonators—(小堀直正・十文字弘道と共著): 昭和 40 年電気通信学会全国大会, No. 117, 1965. 11.

VLF 標準電波用簡易受信機—Simple Receiver for the Reception of VLF Standard Frequency—(江口征夫と共著): 昭和 40 年電気通信学会全国大会, No. 928, 1965. 11.

超音波探傷の基礎—Introduction to Ultrasonic Flaw Detection—: 日本非破壊検査協会, 超音波検査技術講習会テキスト, 1965. 11.

超音波に関する図書紹介—Books on Ultrasonics—: 電気通信学会雑誌, 48, 2047-2049, 1965. 11.

水晶振動子およびフィルタ—Quartz Crystal Units and Filters—(高原靖・小島弘と共著): 電気通信学会雑誌, 48, 1820-1827, 1965. 11.

教授 安達 芳夫 (Yoshio ADACHI, Professor)

二重指数分布に基づく部品故障の解析—Analysis of Electronic Component Failures by Double Exponential Distribution—(塚田俊久・栗原由紀子と共著): 昭和 40 年電気四学会連合大会講演論文集, 658, 1965. 4.

助教授 浜崎 襄二 (Jōji HAMASAKI, Associate Professor)

A Low-Noise and Wide-Band Esaki Diode Amplifier with a Comparatively High Negative Conductance Diode at 1.3 Gc/s—負性コンダクタンスの大きなダイオードを用いた低雑音広帯域エサキダイオード増幅器: IEEE Transactions on Microwave Theory and Techniques, MTT-13, No. 2, pp. 213~223, 1965. 3.

量子論的回路における情報伝送—Transmission of Information in a Quantum Mechanical Circuit—(野口宏と共著): 昭和 40 年電気通信学会全国大会講演論文集, 410, 1965. 11.

助教授 河村 達雄 (Tatsuo KAWAMURA, Associate Professor)

Theoretical Consideration on the Step Response in the Exponential Transmission Line—指数特性の送電線における直角波応答性に関する理論的考察—: Report of the Electrical Engineering, EE-87, National Research Council (CANADA), 1966, 1.

Theoretical Analysis of the Impulse Voltage Measuring System—衝撃電圧測定回路の解析—: Report of the Electrical Engineering, EE-88, National Research Council (CANADA), 1966. 1.

助教授 山口 楠雄 (Kusuo YAMAGUCHI, Associate Professor)

特性パターンを用いたフィードフォワード制御によるシステムの自動化について—Sys-

tem Automation by means of Feedforward Control using Characteristic Patterns
一：計測自動制御学会学術講演会予稿，344，1965. 7.

生産システムのオートメーション—Automation of Production System—：電子科学，
15, 9, 103~107, 1965. 9.

バッチと連続プロセスの混在する工程の制御—Control System for the Plant Composed
of Batch and Continuous Processes—：計測自動制御学会シンポジウム資料，1965. 11.

助教授 高羽 禎雄 (Sadao TAKABA, Associate Professor)

並列遅延線路式多チャンネル波高分析器—A Multichannel Pulse Height Analyzer with
Delay Line Memories—(森脇義雄・生沼徳二・木下英実と共著)：昭和 40 年電気四
学会連合大会論文集，351，1965. 4.

トンネルダイオードを用いたタイムアナライザ—A Time Analyzer with Tunnel Diodes
as Circuit Elements—(森脇義雄・富岡幹雄と共著)：昭和 40 年電気四学会連合大会
論文集，352，1965. 4.

記憶容量が大きくアクセスタイムが短い遅延線路記憶装置とその波高分析器への応用—
—A Delay Line Memory with Large Memory Capacity and Short Access Time
and its Application to Pulse Height Analyzers—(森脇義雄・木下英実と共著)：昭和
40 年度電気通信学会論文集，129，1965. 11.

助教授 藤井 陽一 (Yoichi FUJII, Associate Professor)

光エレクトロニクス—Opto-Electronics—(斎藤成文と共著)：電気学会誌，85, 7, 922,
1965. 7.

レーザ用ねずみのす電力計の試作—Rat's Nest Type Power Meter for Laser Light—
(斎藤成文・川上友暉と共著)：昭和 40 年度電気通信学会講演論文集，1965. 11.

Giant Pulse Laser—ジャイアント・パルス・レーザ (T. Kurashigu, S. Saito, 他 2 名と
共著)：第 6 回ロケットシンポジウム，1965. 11.

ガスレーザ出力安定の一方法—Power Stabilization of Gas Laser—(白石敏と共著)：昭
和 40 年度電気通信学会全国大会，1965. 11.

二次電子初速度による着陸点分布—Initial Velocity Distribution of Secondary Electrons
at Transverse Type Photomultipliers—(小川宏と共著)：昭和 40 年度電気通信学会全
国大会，1965. 11.

多周波入力のマンレー・ロウの関係式とその量子的な解釈—Manley-Rowe Theorem
and Quantum—：昭和 40 年度電気通信学会全国大会，1965. 11.

量子エレクトロニクス—Quantum Electronics—：電子工学ポケットブック，オーム社，
1965. 10.

マイクロ波で変調されたガス・レーザ光の光パラメトリック増幅器による受信—Photo-
parametric Amplifier—(亀尾要道・西本博信と共著)：昭和 40 年度電気通信学会全国
大会，1965. 4.

レーザ発振器の回路的特性—An Equivalent Circuit for Gas Laser Oscillator—(白石敏と共著)：電気通信学会量子エレクトロニクス研究会，1965. 12.

ダイオード・レーザのマイクロ波変調—Microwave Modulation of Semiconductor Laser—(多村武雄と共著)：電気通信学会量子エレクトロニクス研究，1965. 4.

助教授 安田 靖彦 (Yasuhiko YASUDA, Associate Professor)

PCM-PAM ハイブリッド通信における送信電力の最適配分—Optimum Power Allocation in a PCM-PAM Hybrid Telemetry System—(野村民也，神子富雄と共著)：昭和 40 年度電気四学会連合大会，No. 2112, 1965. 4.

宇宙飛翔体用超遠距離コマンドの一方式—A Long Range Command System for Space Vehicles.—(野村民也，高木幹雄と共著)：昭和 40 年度電気通信学会全国大会，No. 889, 1965. 11.

デジタル通信のフレーム同期に関する一考察—A Consideration on Frame Synchronization of Digital Communication—(野村民也・神子富雄と共著)：昭和 40 年度電気通信学会全国大会，S11-18, 1965. 11.

テレメータ機器—Telemetry Equipments—：電気学会誌，85, 12, 927, 1983, 1965. 12.

テレメータ情報の伝送—Transmission of Telemetry Information—(野村民也と共著)：計測と制御，4, 11, 732, 1965. 11.

システム設計の手順—Procedurc of System Design—(大野豊他 3 名と共著)：計測と制御，4, 11, 739, 1965. 11.

助教授 高木 幹雄 (Mikio TAKAGI, Associate Professor)

位相記憶による短時間伝送妨害の測定方式—Measurement of Short Duration Transmission Interference by Means of a Phase Memory—(猪瀬博，斎藤忠夫と共著)：電気通信学会雑誌，48, 7, 1232~1239, 1965. 7.

デジタル情報伝送における同期の一方式—A Method of Group Synchronization in Digital Information Transmssion—(猪瀬博・今津敦志と共著)：電気通信学会雑誌，48, 8, 1384~1393, 1965. 8.

符号集線用蓄積装置の容量について—On the Storage Capacity of the Data Concentrator—(猪瀬博と共著)：昭和 40 年電気四学会連合大会講演論文集，1935, 1965. 4.

フレーム相関によるデジタル情報伝送同期方式—A Method of Frame Synchronization in Digital Information Transmission Featuring Frame Correlation—(今津敦志，猪瀬博と共著)：昭和 40 年電気四学会連合大会講演論文集，2100, 1965. 4.

位相記憶による短時間伝送妨害記録測定装置—Measurement and Recording System of Short Duration Transmission Interference—(猪瀬博，斎藤忠夫と共著)：東京大学工学部総合試験所年報，第 24 年第 1 号，1~8, 1965. 9.

分散型遅延回路測定用パルス発生器—Palse Generator for Measuring Dispersive Delay Line—(尾上守夫，藤本洋と共著)：昭和 40 年度電気通信学会全国大会論文集，592,

1965. 11.

小規模な符号集線装置—A Small Size Data Concentrator—(島直, 猪瀬博と共著): 昭和 40 年度電気通信学会全国大会論文集, 818, 1965. 11.

宇宙飛しょう体用超遠距離コマンドの一方式—A Long Range Command System for Space Vehicles—(安田靖彦・野村民也と共著): 昭和 40 年度電気通信学会全国大会論文集, 889, 1965. 11.

助手 長谷部 望 (Nozomu HASEBE, Assistant)

136-137 Mc Tracking Antenna Mounted on the Surface of a Cassegrainian Sub-dish—カセグレインアンテナのサブディッシュ面を利用した 136~137Mc 追尾アンテナ—(S. Saito, T. Nomura と共著): Proc. of 6th International Symp. on Space Technology. 1965.

トラッキングとデータ取得—Tracking and Data Acquisition (斎藤成文と共著): 宇宙科学技術調査, 1965. 11.

助手 山田 博章 (Hiroaki YAMADA, Assistant)

板波の減衰の周波数特性—Frequency Dependence of Attenuation of Plate waves—(尾上守夫と共著): 音響学会講演論文集, No. 2-1-15, 1965. 5.

技 官 市川 初男 (Hatsuo ICHIKAWA, Technician)

渦流検査用コイルの特性評価—Evaluation of Characteristics of Probe Coils for Eddy Current Testing—(尾上守夫・竹内久満と共著): 日本非破壊検査協会秋季学術講演会, Ⅲ-1, 1965. 10. 9.

第 4 部

教授 福田 義民 (Yoshitami FUKUDA, Professor)

活性炭による溶剤回収に関する研究—Studies on Solvent Recovery by Activated Carbon—(河添邦太郎と共著): 化学工学, 29, 6, 374~380, 1965. 6.

Studies on Solvent Recovery by Activated Carbon—活性炭による溶剤回収に関する研究—(K. Kawazoe と共著): Kagaku Kōgaku (Abridged edition), 3, 2, 126~129, 1966. 3.

活性炭に対する有機溶剤の吸着平衡—Adsorption Equilibrium of Organic Solvents on Activated Carbons—(河添・竹内と共著): 化学工業協会第 30 年会講演前刷集, 409~410, 1965. 4.

教授 永井 芳男 (Yoshio NAGAI, Professor)

3, 3'-ジベンゾアントロニルの合成—Synthesis of 3, 3'-Dibenzanthronyl—(長沢孝太郎

- と共著): 工化誌, 68, 1906, 1965. 10.
- 3, 4 (CO): 13 (CO), 14-ジベンゾイレン・カテリレン (ピオロングトロン)の合成—Synthesis of 3, 4 (CO): 13 (CO), 14-Dibenzoylen quaterrylene—(山本謙二と共著): 工化誌, 68, 2257, 1965. 11.
- 3 (CO), 4: 13 (CO), 14-ジベンゾイレン・カテリレン (イソピオロングトロン)の合成—Synthesis of 3 (CO), 4: 13 (CO), 14-Dibenzoylene quaterrylene—(長沢孝太郎と共著): 日化誌, 87, 284, 1966. 3.
- 7, 8-ベンゾ-3 (CO), 4: 11, 12 (CO)-ジベンゾイレン・テリレンの合成—Synthesis of 7, 8-Benzo-3 (CO), 4: 11, 12 (CO)-Dibenzoylene terrylene—(長沢孝太郎と共著): 日化誌, 87, 281, 1966. 3.
- キノクリドンの新合成—New Synthesis of Quinacridone—(西久夫・長谷川日吉と共著): 工化誌, 68, 321, 1965. 2.
- キノクリドンの合成—Synthesis of Quinacridone—(西久夫・長谷川日吉と共著): 工化誌, 68, 1717, 1965. 9.
- キノクリドン・キノ誘導体の合成—Synthesis of Quinacridone quinone-derivatives—(西久夫・長谷川日吉と共著): 工化誌, 68, 1910, 1965. 10.
- キノクリドン誘導体の合成—Synthesis of Quinacridone-derivatives—(西久夫・長谷川日吉と共著): 工化誌, 68, 2262, 1965. 11.
- アルキル基を有する *p*-ジスアゾベンゼン誘導体に関する研究—Studies on the alkyl derivatives of *p*-disazobenzene—(松尾昌季と共著): 工化誌, 68, 683, 1965. 4.
- p*-ジスアゾベンゼン誘導体の染色性—Dyeabilities of *p*-disazobenzene derivatives—(松尾昌季と共著): 工化誌, 68, 2282, 1965. 11.
- p*-ジスアゾベンゼンの *o*-アルキル誘導体の合成—Synthesis of *o*-alkyl derivatives of *p*-disazobenzene—(松尾昌季と共著): 工化誌, 69, 294, 1966. 2.
- Polyesters Containing Carbazol Rings in the main Chain, I—主鎖にカルバゾール環を有するポリエステル, 第1報 (C. C. Huang と共著): Bull. Chem. Soc. Japan, 38, 951, 1965. 6.
- Polyesters Containing Carbazol Rings in the main Chain, II—主鎖にカルバゾール環を有するポリエステル, 第2報—(C. C. Huang と共著), Bull. Chem. Soc. Japan, 38, 1136, 1965, 7.
- アルデヒドの重合, 第4報—Polymerisation of aldehyde, IV—(中島利誠・八子忠敬と共著): 日本化学会第18年会講演要旨集, 66, 1965. 4.
- カルバゾールジカルボン酸ジエチルとグリコールの重縮合—Polycondensation between Ceubazol diethyl dicarbonates and glycols—(黄金川・石田穰と共著), 同上, 8, 1965. 4.
- 3-ハロゲンベンゾアントロンの Ullmann 反応—Ullmann Reaction of 3-Halogenobenzanthrone—(長沢孝太郎と共著): 同上, 291, 1965. 4.

- 3, 3'-ジベンゾアントロニルの合成—Synthesis of 3, 3'-Dibenzanthronyl—(長沢孝太郎・岩山統・長谷川日吉と共著): 同上, 291, 1965. 4.
- 脱アミノによる *p*-ジスアゾベンゼン誘導体の合成—Preparation of *p*-Disazobenzene derivatives by Deamination—(松尾昌季と共著): 同上, 291, 1965. 4.
- アルキルを有するジスアゾベンゼン誘導体の染色性—Dyeabilities of alkyl derivatives of disazobenzene—(松尾昌季, 谷川恭一と共著): 同上, 291, 1965. 4.
- 3, 4 (CO), 13 (CO), 14-ジベンゾイレン・カテリレン (ピオロングトロン) の合成—Synthesis of Violongthron—(山本謙二・岩山統と共著): 同上, 292, 1965. 4.
- キナクリドンの合成—Syntheses of Quinacridone—(西久夫・後藤信行・長谷川日吉と共著): 同上, 294, 1965. 4.
- キナクリドン誘導体の合成—Syntheses of Quinacridone derivatives—(西久夫・後藤信行・長谷川日吉・三橋勝・吉田浩一と共著): 同上, 1965. 4.
- ポリオレフィン用染料—Dyes for Polyolefin fiber—(松尾昌季と共著): 有合化誌, 23, 2, 1965. 1.
- キナクリドン系化合物について—Compounds of Quinacridone Series—(後藤信行・西久夫と共著): 有合化誌, 23, 318, 1965. 4.
- 多環化合物の特性について—Selective Properties of Polycyclic Compounds—有合化誌, 23, 919, 1965. 11.
- 有機工業色素—新しい染料・顔料—Organic Industrial Colouring Matters—New Dyestuffs and Pigments—: 新しい合成化学, 7, 1, 共立社, 1965. 7.
- 染料物質の合成とその特性—On the Syntheses and the Characteristics of Dye-Substances—: 染料と薬品, 11, 9, 1966. 1.
- 染料—Dyestuffs—: 化学便覧応用編, p. 799, 1965. 10.

教授 菊池 真一 (Shinichi KIKUCHI, Professor)

- 二, 三の重縮合型感光性樹脂の合成—Syntheses of Some Photosensitive Polycondensates—(沈貞燮と共著): 工化誌, 68, 387, 1965.
- 重縮合型感光性樹脂の感光性—Sensitivity of Photosensitive Polycondensates—(沈貞燮・吉永忠司と共著): 工化誌, 68, 393, 1965.
- 感光性樹脂の増感と分光感度—Studies on the Sensitization and Spectral Sensitivity of Photosensitive Polymers—(沈貞燮・加藤日出夫・吉永忠司と共著): 工化誌, 68, 1002, 1965.
- 重縮合型感光性樹脂の光硬化反応—The Curing Reaction of Photosensitive Polycondensates—(沈貞燮・吉永忠司と共著): 工化誌, 68, 1009, 1965.
- 重縮合型感光性樹脂の製版への応用—Studies on Plate-Making of Photosensitive Polycondensates—(沈貞燮・角田隆弘と共著): 工化誌, 68, 1013, 1965.
- 低照度感光計の試作とその応用—Design of Low Intensity Sensitometer and its Applications—(吉永忠司・望月祐子と共著): 日本写真学会誌, 28, 78, 1965.

Studies on the Activation Energy of Photographic Development—写真現像の活性化エネルギーの研究—(Co-Author N. Sinozuka): Bull. Soc. Sci. Phot. Japan, No. 14, 13, 1964.

水溶液中におけるアシドペンタアミンコバルト(Ⅲ)錯イオンの光分解反応—Photodecomposition of Acidpentamminecobalt(Ⅲ) Complex Ions in Aqueous Solution—(篠塚則子と共著): 日化誌, 87, 97, 1966.

The Electronic States of Photographic Sensitizers. —写真増感剤の電子状態—(Co-Author T. Tani): Colloque International de la Science Photographique, Paris, 1965.

シアニン系感光色素のポーラログラフ半波電位と電子エネルギー準位 —Relation between the Polarographic Half-wave Potentials and the Electronic Energy Levels of Cyanine Dyes—(谷忠昭・中井恭子・本多健一と共著): 電気化学, 34, 149, 1966.

教授 江上 一郎 (Ichiro EGAMI, Professor)

マグネシウムの特殊電解製錬法に関する研究(第5報, 第6報)—Study on New Electrolytic Production Process of Magnesium—(明石和夫・鈴木鉄也と共著): 日本鉱業会誌, 81, 922, 248~250, 1965, 250~253, 1965

教授 浅原 照三 (Teruzo ASAHARA, Professor)

テロマーとその誘導体—主としてテトラクロルアルカンとその誘導体について—Telomers and their Derivatives—(平野二郎と共著): 油化学, 14, 153, 1965.

無水硫酸による脂肪酸の α -スルホン化に関する研究(第3報) α -スルホ脂肪酸の分析法— α -Sulfonation of Fatty Acids with Sulfur Trioxide. III. —Quantitative Determination of α -Sulfofatty Acids—(石黒鉄郎と共著): 油化学, 14, 237, 1965.

無水硫酸による脂肪酸の α -スルホン化に関する研究(第4報) スルホン化反応— α -Sulfonation of Fatty Acids with Sulfur Trioxide. IV. —Sulfonation Reaction—(石黒鉄郎と共著): 油化学, 14, 284, 1965.

脂肪酸過酸化物とハロゲンの反応に関する研究(第2報) ジオクタノイルパーオキシドと四臭化炭素の反応—Studies on the Reaction of Aliphatic Peroxide with Halogen. II. —Reaction of Dioctanoyl Peroxide with Carbontetrabromide—(雑賀大武と共著): 油化学, 14, 288, 1965.

無水硫酸による脂肪酸の α -スルホン化に関する研究(第5報) α -スルホ脂肪酸のアリルエステルの重合— α -Sulfonation of Fatty Acids with Sulfur Trioxide. V.—Polymerization of Allyl α -Sulfopalmitate—(石黒鉄郎・呉潤榮と共著): 油化学, 14, 500, 1965.

脂肪酸過酸化物とハロゲンの反応に関する研究(第3報) 四塩化炭素溶媒中におけるジオクタノイルパーオキシドと四臭化炭素の反応—Studies on the Reaction of Aliphatic Peroxide with Halogen. III.—Reaction of Dioctanoyl Peroxide with Carbontetrabromide in Carbontetrachloride—(雑賀大武と共著): 油化学, 14, 614, 1965.

- ポリグリコリド, ラクチドの生成と生成物の性状—Studies on Aliphatic Polyesters. IV. The Synthesis and Properties of Polyglycolide-lactide—(片山志富と共著): 工化誌, 68, 983, 1965.
- α -スルホパルミチン酸塩水溶液の可溶化—Solubilization Phenomena of Aqueous Solutions of α -Sulfopalmitates—(石黒鉄郎と共著): 工化誌, 68, 2140, 1965.
- テロメリゼーションによるアルキルベンゼンの合成—Synthesis of Alkylbenzene by Telomerization—(佐藤瑞と共著): 石油と石油化学, 9, 40, 1965.
- シクロアルカン類の水素化分解—Hydrogenolysis of Cycloalkanes—(小野勝道と共著): 有機化学, 23, 1075, 1965.
- アミンを開始剤とするエチレンと四塩化炭素のテロメリゼーション—Telomerization of Ethylene and Carbon Tetrachloride Initiated by Amines—(平野二郎と共著): Bull. of The Japan Petroleum Institute, 7, 35, 1965.
- β -プロピオラクトンとアルコール類との共重合—Copolymerization of β -Propiolactone and Alcohols.—: 日化第 18 年会講演要旨集, 1308, p. 9, 1965.
- アクリロニトリル低重合体の合成—Synthesis of Acrylonitril Oligomer—: 日化第 18 年会講演要旨集, 3307, p. 56, 1965.
- イオンテロメリゼーションに関する研究—Studies on Ionic Telomerization—(I) イソプレレン, ブタジエンをタクソージェンとするイオンテロメル化反応, 日化第 18 年会講演要旨集, 3322, p. 60, 1965.
- 無水硫酸による脂肪酸の α -スルホン化に関する研究— α -Sulfonation of Fatty Acid with Sulfur Trioxide. (VIII)—(第 8 報) α -スルホパルミチン酸エタノールアンモニウム塩の可溶化, 日化第 18 年会講演要旨集, 8322, p. 143, 1965.
- 無水硫酸による脂肪酸の α -スルホン化に関する研究— α -Sulfonation of Fatty Acid with Sulfur Trioxide (IX)—(第 9 報) α -スルホパルミチン酸塩の洗浄性, 日化第 18 年会講演要旨集, 8323, p. 144, 1965.
- 四塩化炭素またはシクロヘキサン溶媒中におけるジオクタノイルパーオキシドと四臭化炭素の反応—Study on the Reaction of Dioctanoly Peroxide with Carbon Tetrabromide—日化第 18 年会講演要旨集, 9425, p. 173, 1965.
- トリクロルメチル基の反応—Reactivity of Trichlor Methyl Radical—日化第 18 年会講演要旨集, 9512, p. 177, 1965.
- ジケテンのハロゲン化ポリマーの合成—Synthesis of Halogenized Polymer from Diketene—日化第 18 年会講演要旨集, 12402, p. 225, 1966.
- ヨウ化アルキルとエチレンの反応—Reaction between Ethylene and Alkyl Iodide—日化第 18 年会講演要旨集, 20320, p. 392, 1965.
- 化学便覧 (応用編)—Chemical Handbook (Applied Chemistry)—: 編集および執筆分担, 丸善 KK, 1965. 10.

トレーサーの新らしい技術—Some New Tracer Techniques—: 原子力工業, 11, 7, 2, 1965.

放射化学分析法—Radiochemical Methods of Analysis—(佐藤乙丸と共著): 原子力工業, 11, 10, 49, 1965.

放射線および放射性同位元素, その他の利用—Miscellaneous Applications of Radiation and Isotopes—: 電気工学年報, 40年度版, p. 442~443, 1965. 11.

Brief Review of Uses of Radioisotopes Instruments and Radiotracers in Mining and Processing Raw Materials in Japan.—日本における選鉱精錬面へのアイソトープ応用機器とトレーサー利用の概況—: IAEA Panel on Uses of Radioisotopes in the Development of Natural Resources, Cracow, Poland, 25~29, 1965. 10.

RI 利用シンポジウムに出席して—Reports on IAEA Symposium on Radioisotopes Instruments in Industry and Geophysics.—: 原子力産業新聞, 339, p. 6, 1965. 12.

ポーランドの原子力事情—Present Status of Polish Atomic Energy—: 原子力産業新聞, 338, p. 6, 1965. 12.

放射化学分析法ないしは放射化トレーサー法によるアルミニウム合金の腐食に関する研究—Study on Corrosion of Aluminium Alloys using Radioactivation or Radiotracer Analysis.—: 軽金属協会, 腐食研究グループ報告書, 1966. 3.

教授 野崎 弘 (Hiroshi NOZAKI, Professor)

電子写真用酸化チタンの研究—Studies of Titanium Oxide for Electrophotography—(飯田武揚と共著): 電子写真, 6, 2, 46, 1965.

電子写真用酸化チタン感光紙—On the Electrophotographic Properties of Titanium Dioxide Fax-Paper—: 工化誌, 68, 269, 1965.

古典熱力学から新熱力学へ—Classical and New Thermodynamics—: 学芸書房発行, 1966. 3.

教授 雀部 高雄 (Takao SASABE, Professor)

400°C から 900°C の間における鉄鋼石の還元の際にあらわれる還元速度の異常現象について—On the Irregularity of the Reduction Rate during the Iron Ore Reduction at the Temperatures between 400°C~900°C—(福永弘一・吉越英之・江本房利と共著): 鉄と鋼, 51, 4, 1965. 3.

900°C から 1300°C の間における鉄鉱石還元の際にあらわれる還元速度の急激に減少する点について—On the Cut off Point of the Reduction Rate during the Iron Ore Reduction at the Temperatures between 900°C~1300°C—(吉越英之・福永弘一・江本房利と共著): 鉄と鋼, 51, 4, 1965. 3.

1600°C までの高温における含ニッケル・クロム鉄鉱石還元の際の選択還元および鉄と脈石の分離について (鉄鉱石の還元に関する研究-II)—The Selective Reduction and the Separation of Iron and Gangue Materials during Ni-Cr-Bearing Iron Ore

Reduction at High Temperature up to 1600°C (Studies on reduction of Iron Ore-II)
—(江本房利・吉越英之・福永弘一と共著): 鉄と鋼, 51, 4, 1965. 3.

教授 山辺 武郎 (Takeo YAMABE, Professor)

解説無機工業化学—Text book of Industrial Inorganic Chemistry—: 共立出版, p. 191, 1965. 12.

イオン排除による脱塩の研究—On the Desalting by Ion Exclusion— (鈴木喬, 妹尾学と共著): 日化誌, 86, 1278, 1965. 12.

イオン交換膜 応用 I 概説—Ion-Exchange Membrane Application I General Discussion—: 電化, 33, 599, 1965. 8.

教授 中村 亦夫 (Matao NAKAMURA, Professor)

電磁変換式レオメーターによる糊料の粘弾性—Viscoelastic Properties of Some Industrial Pastes by Electro-Magnetic Transducer Method—(黒岩城雄と共著): 高化誌, 22, 9, 1965.

定常流停止後の弾性反動測定装置の試作と Na-PAA 溶液の流動弾性—Fluid Elasticity of Na-Polyacrylate Solutions—(黒岩城雄と共著): 高化誌, 22, 385, 1965.

糊料の流動弾性と非ニュートン流—Non-Newtonian Flow and Fluid Elasticity of Pastes.—(黒岩城雄と共著): 高化誌, 22, 394, 1965.

2-プロパノール中におけるセルロースグリコール酸ナトリウムの製法—Preparation of Sodium Cellulose Glycolate by Use of 2-Propanal Solution as Reaction Media—(渡辺綱市郎と共著): 工化誌, 65, 1590, 1965.

高粘度セルロースグリコール酸ナトリウムの製法に関する研究—Studie on the Preparation of High Viscous Sodium Cellulose-Glycolate by Use of Epichlorohydrin—(渡辺綱市郎と共著): 工化法, 68, 1923, 1965.

高エーテル化度セルロースグリコール酸ナトリウムの製造に関する研究—Studies on the Preparation of Sodium Cellulose-Glycolate of High Degree of Substitution—(渡辺綱市郎と共著): 工化誌, 68, 1926, 1965.

助教授 武藤 義一 (Giichi MUTO, Associate Professor)

定電位クーロメトリーの自動液体クロマトグラフィーへの応用—Application of Controlled Potential Coulometry to the Automatic Recording of Liquid Chromatography—(高田芳矩と共著): 分析化学, 14, 5, 453, 1965. 3.

液体クロマトグラフにおける電量的検出法の検出限界—The Detection Limit of Coulometric Method in Liquid Chromatograph—(高田芳矩と共著): 分析化学, 15, 3, 269, 1966. 3.

海塩の分析—Chemical Analysis of Sea-Salt—(編集および分担執筆): 日本海水学会, 1966. 3.

助教授 今岡 稔 (Minoru IMAOKA, Associate Professor)

B_2O_3 - GeO_2 系ガラスの性質と構造—Properties and Structure of Glasses of B_2O_3 - GeO_2 System—(山崎敏子と共著): 窯協, 73, 264~272, 1965. 12.

ガラス化範囲と冷却速度—Glass-Formation Range and Cooling Rate—(蔵方宏之・田井真一・野々村弘と共著): 窯協, 73, 52~60, 1966. 2.

助教授 西川 精一 (Seiichi NISHIKAWA, Associate Professor)

析出硬化性合金材料—On Precipitation Hardening Alloys—: 第3回生研講習会テキスト, 1965. 6.

低熔点金属のはなし—On Low Melting Metals—: 100万人の金属学, 材料編 (三島他24名と共著), 第15章, アグネ, 1965. 9.

Cu-Co 合金の時効について—On Ageing Characteristics of Cu-Co Alloys—(長田和雄・小林繁美と共著): 日本金属学会昭和40年秋期講演会概要集, 1965. 10.

Al-Zr 合金に関する研究 (第2報)—Studies on Al-Zr Alloys (2nd Rept.)—(長島・沢口と共著): 軽金属学会, 昭和40年10月秋期講演会概要集, 1965. 11.

メッキによる水素脆性について—On Hydrogen Embrittlement in Electroplating—: 金属表面技術, 16, 11, 1965. 32.

Cu-Cr 合金の時効過程について—On the Ageing Process of Cu-Cr Alloys—(長田和雄・小林繁美と共著): 日本金属学会誌, 5, 3, 1966.

助教授 原 善四郎 (Zenshiro HARA, Associate Professor)

鉄粉の連続抵抗焼結法に関する研究—Study on Continuous Resistance Sintering of Iron Powder—(坂井徹郎・板橋正雄と共著): 粉体粉末冶金協会昭和40年度春季大会講演概要集, p. 5, 1965. 4.

鉄粉の瞬間抵抗焼結法に関する研究—Study on Flash Resistance Sintering of Iron Powder—(坂井徹郎・板橋正雄と共著): 粉体粉末冶金協会40年度秋季大会講演概要集, p. 5, 1965. 4.

助教授 後藤 信行 (Nobuyuki GOTOH, Associate Professor)

キナクリドン系化合物について—Compounds of Quinacridone Series—(永井芳男・西久夫と共著): 有化合誌, 23, 318, 1965. 4.

キナクリドン顔料, 化学と工業, 18, 1104, 1965. 9.

キナクリドンの合成—Synthesis of Quinacridone—(永井芳男・西久夫・長谷川日吉と共著): 日本化学会第18年会講演要旨集, 294, 1965. 4.

キナクリドン誘導体の合成—Synthesis of Quinacridone Derivatives—(永井芳男・西久夫・長谷川日吉らと共著): 同上, 294, 1965. 4.

染料中間物の問題点—新しい染料・顔料—New Survey of Dye Intermediates—新しい合成化学7巻 共立社, 1965.

染料中間物—Dye Intermediates—化学便覧, 応用編, 799, 1965.

助教授 河添邦太郎 (Kunitaro, KAWAZOE, Associate Professor)

「吸着・イオン交換」特集号に寄せて—Preface to Symposium on Adsorption and Ion-Exchange—: 化学工学, 29, 6, 367, 1965. 6.

活性炭による溶剤回収に関する研究—Studies on Solvent Recovery by Activated Carbon—(福田義民と共著): 化学工学, 29, 6, 374~380, 1965. 6.

吸着における物質移動—Mass Transfer in Adsorption Process—: 化学工学, 29, 6, 404~409, 1965. 6.

吸着 (レビュー) —Adsorption (Review)—(竹内雍と共著): 化学工学, 29, 6, 485~490, 1965. 6.

化学工業における RI のトレーサー利用 (化学工学) —Application of RI in Chemical Industry (Chemical Eng.)—(竹内雍と共著): 原子力工業, 11, 7, 5~7, 1965. 7.

固体吸着剤による脱湿操作—Dehumidification by Solid Adsorbent—: 化学工学, 29, 10, 831~833, 1965. 10.

吸着装置の性能特性—Characteristic Performances of Adsorption Apparatus—: 化学工学, 29, 10, 840~842, 1965. 10.

流動層の吸着・イオン交換装置への応用—Applications of Fluidized Bed in Adsorption and Ion-Exchange Apparatus—化学工学, 29, 11, 953~956, 1965. 11.

ポロシメトリーについて (多孔性物質の細孔分布の測定法)—On Porosimetry (Determination of Pore Size Distribution of Porous Material)—(川井利長と共著): 表面, 4, 2, 75~81, 1966. 2.

Studies on Solvent Recovery by Activated Carbon—活性炭による溶剤回収に関する研究—(Y. Fukuda と共著): Kagaku Kōgaku (Abridged Edition), 3, 2, 126~129, 1966. 3.

活性炭に対する有機溶剤の吸着平衡—Adsorption Equilibrium of Organic Solvents on Activated Carbons—(福田・竹内と共著): 化学工学協会第 30 年会講演前刷集, 409~410, 1965. 4.

イオン交換における物質移動の研究—Studies on Masstransfer in Ion Exchange—(竹内・古沢・橋本と共著): 同上, 231~232, 1965. 4.

助教授 館 充 (Mitsuru TATE, Associate Professor)

吹込燃料のコークス置換率の理論式とその適用限界について—On the Theoretical Equation of Coke Equivalent of Injected Fuel and Its Application Limit—(中根千富・金鉄祐・鈴木吉哉と共著): 鉄と鋼, 8, 51, 1543~1550, 日本鉄鋼協会, 1965. 7.

Experiments on Powdered Coal Injection into 0.5 m³ Blast Furnace—0.3 m³ 試験高炉における粉炭吹込み試験—(同上): TETSU-TO-HAGANE OVERSEAS, 3, 5, 180~186, 1965. 9.

助教授 早野 茂夫 (Shigeo HAYANO, Associate Professor)

- メチレンブルーとドデシル硫酸ナトリウムの相互作用に関するポーラログラフ的所見—
Polarographic Studies on the Interaction between Methylene Blue and Sodium
Dodecyl Sulfate—(影山宏・鈴木孝男と共著): 工化, 68, 11, 2128~2132, 1965. 11.
ポーラログラフ法—Polarographic Method—高橋武雄編「有機定量分析」p. 135~174,
日刊工業新聞社, 1965. 10.
表面活性剤—Surface Active Agents—日本化学会編「化学便覧」応用編, p. 602~614,
1965. 10.

助教授 明石 和夫 (Kazuo AKASHI, Associate Professor)

- 熔融塩電解法によるボロンの製造に関する研究—Study on Production of Boron by
Fused Salt Electrolysis—: 日本鉱業会誌, 81, 922, 246~248, 1965.
窒化ホウ素の製造—Synthesis of Boron Nitride—: 電気化学協会講演要旨集, C 315,
1965. 4.

助教授 本多 健一 (Kenichi HONDA, Associate Professor)

- 感光性ジアゾ化合物の光分解反応—Study of Photodecomposition of the Photo-Sensitive
Diazonium Compounds: NHK 技術研究, 17, 73, 1965.
シアニン系感光色素のポーラログラフ半波電位と電子エネルギー準位—Relation bet-
ween the Polarographic Half-Wave Potentials and the Electronic Energy Levels of
Cyanine Dyes—: 電気化学, 34, 149, 1966.

研究員 小林 昌敏 (Masatoshi KOBAYASHI, Researcher)

- ラジオアイソトープを利用した合金の腐食に関する基礎研究—Fundamental Study on
the Corrosion of the Metals by using Radioisotopes—(堀口泰裕らと共著): 第2回
回理工学における同位元素研究発表会要旨集, p. 46, 1965. 4.
(t, n) 反応を利用した粉体中の酸素の分析—Activation Analysis of Oxygen in Powder
by means of (t, n) Reaction—(永塚澄子らと共著): 第2回回理工学における同位元素
研究発表会要旨集, p. 99, 1965. 4.
Application of Activation Analysis on Stream Flow Measurement—放射化分析を利用
した河川の流量測定—(堀口泰裕らと共著): Annual Report of the Tokyo Metropolitan
Isotope Research Center, 4, 1~9, 1965.
L'Analyse par Activation Nondestructif des Eléments d'Impuretés dans l'Aluminium
au Moyen des Neutrons Thermiques—熱中性子によるアルミニウム中の不純物の非
破壊放射化分析—(永塚澄子らと共著): Annual Report of the Tokyo Metropolitan
Isotope Research Center, 4, 10~18, 1965. 9.

助手 妹尾 学 (Manabu SENŌ, Assistant)

- 土壤水エネルギー指数 pF による土壤構造の考察—A Study on the Soil Structure
160

based on the Energy Concept of the Soil Water—: 農土論集, 14, 11~15, 1965. 12.

助手 竹内 雍 (Yasushi TAKEUCHI, Assistant)

- 連続吸着装置—Continuous Adsorption Apparatus—(浅井宗一と共著): 化学工学, 29, 6, 415~420, 1965. 6.
- 吸着 (レビュー)—Adsorption (Review)—(河添邦太郎と共著): 化学工学, 29, 6, 485~490, 1965. 6.
- ピッチの蒸留による炭化歩留の向上—Improvement of Coking Yield of Tar Pitch by Distillation—: 工化, 68, 6, 1024~1026, 1965. 6.
- 黒鉛化中の炭素材の寸法変化—Dimensional Change of Carbon during Graphitization—: 工化, 68, 61, 1026~1031, 1965. 6.
- 焼成工程におけるピッチの炭化歩留—Coke Yield of Binder Pitch in Baking Process of Carbon Products—: 工化, 68, 6, 1031~1034, 1965. 6.
- 焼成中の炭素材の重量および寸法変化—Weight Loss and Dimensional Change of Carbon during Baking—: 工化, 68, 6, 1035~1038, 1965. 6.
- 黒鉛材の物理特性におよぼす粘結剤の影響—Effect of Binder Pitch on Physical Properties of Graphitized Carbons—工化, 68, 7, 1188~1194, 1965. 7.
- 化学工業における RI のトレーサー利用 (化学工学)—Applications of RI in Chemical Industry (Chemical Eng.)—(河添邦太郎と共著): 原子力工業, 11, 7, 5~7, 1965. 7.

助手 佐藤 乙丸 (Otomaru SATO, Assistant)

- 水理学における RI のトレーサー利用 “表面水”—Application of Radioactive Tracer Techniques in Hydrology on Surface Water—: 原子力工業, 11, 7, 27, 1965.
- 放射化学分析法—Radiochemical Methods of Analysis—(加藤正夫と共著): 原子力工業, 11, 10, 49, 1965.
- 放射線および放射性同位元素—Radiation and Radioisotope on Industrial Applications—: 電気工学年報 40 年度版, p. 442~443, 1965. 11.

助手 長田 和雄 (Kazuo NAGATA, Assistant)

- Cu-Co 合金の時効について—On Ageing Characteristics of Cu-Co Alloys—(西川・小林と共著): 日本金属学会昭和 40 年秋期講演会概要集, 1965. 10.
- Cu-Cr 合金の時効過程について—On the Ageing Process of Cu-Cr Alloys—(西川・小林と共著): 日本金属学会誌, 5, 3, 1966.

助手 大蔵 明光 (Akemitsu OKURA, Assistant)

- 還元海綿鉄粉の性質について—On the Properties of Reduced Sponge Iron Powders—(松下幸雄と共著): 鉄と鋼, 51, 1, 1965. 1.

ペレットの還元組織について—Structure of Reduced Iron Pellets—(松下幸雄と共著) : 鉄と鋼, 51, 2, 1965. 2.

還元進行過程の調査 (小型高炉による製鉄過程に関する基礎研究 I) —Investigations of Ore Reduction Processes.—(Basic study on the iron making by a miniature blast furnace I) (F.P: カルデロン, 松下幸雄と共著) : 51, 10, 1965. 10.

Structure of Reduced Iron Pellets—還元ペレットの組織について—(松下幸雄と共著) : 鉄と鋼 (海外版), 5, 3, Panel discussion at the 68 th grand lecture meeting, 1965. 9.

第 5 部

教授 星野 昌一 (Shoichi HOSHINO, Professor)

プレハブ建築の性能標準に関する研究—Study about Functional Requirements Standard of Prefabricated Buildings—: 性能分類分科会研究報告, プレハブ建築協会, 1965. 4.

軽量鉄骨による内装不燃パネルに関する研究—Study about Non-Combustible Panels of Light Gauge for Interior Use—: 内装不燃パネル委員会研究報告, 軽量鉄骨協会, 1965. 12.

教授 坪井 善勝 (Yoshikatsu TSUBOI, Professor)

壁式 RC 構造の再検討 (その 1. 概説)—Reexamination Studies on the Aseismatic Property of Reinforced Concrete Shear-Wall Structures No. 1. Introduction—: 日本建築学会論文報告集, 1965. 9.

同上 (その 2. アクリル模型実験)—No. 2, Elastic Tests by Acrylic Resin Models. —(川股重也と共著) : 同上.

同上 (その 3. 剪断変形する接合部をもつ長方形ラーメンの撓角法)—No. 3. Slope-Deflection Method for the Rectangular Frames with Shear-Deformable Connections. —(田中尚と共著) : 同上.

同上 (その 4. 光弾性実験)—No. 4 A Two dimensional Photoelastic Method—(松井源吾と共著) : 同上.

同上 (その 5. 組合せ応力 N, M, Q に対する耐力壁単体の耐力, 剛性の検討)—No. 5 Examination on Strength and Rigidity of Unit Main Wall under Combined Stresses M. N. Q.—(末永保美と共著) : 同上.

同上 (その 6. 接合部の配筋法に関する実験)—No. 6. Experimental Study on the Design of the Joints—(矢代秀雄と共著) : 同上.

同上 (その 7. 準実大構面の水平加力実験概要)—No. 7. Outline on Shear Tests of Semi Full Scale Reinforced Concrete Wall Constructions—(富井政英と共著) : 同上.

- 同上 (その 8. 準実大構面の水平加力実験解析)—No. 8. Studies on Shear Tests of Semi Full Scale Reinforced Concrete Wall Constructions.—(徳広育夫と共著): 同上.
- 同上 (その 9. ランダム地動に対する応答の統計的性質について)—No. 9 Statistical Properties of Response on Random Ground Motions.—(田治見宏と共著): 同上.
- 組合せ応力による RC 構造の破壊に関する研究 (その 1. せん断と曲げをうけるはり部材のせん断破壊性状およびコンクリート部の挙動について)—No. 1. Study on Failure of Reinforced Concrete Structures under Combined Stresses—Part 1. Fundamental Experiments on Behavior of Concrete of Reinforced Concrete Beam under Shearing Force—(重信恒雄と共著): 同上.
- 同上 (その 2. 軸力とせん断力をうける柱のせん断特性について)—Part 2. Load-Deflection Characteristics of Columns under Combined Stresses due to Constant Axial Force and Repeated Bending Moment and Shear—(黒正清治と共著): 同上.
- 同上 (その 3. 曲げと捩りをうけるはりの耐力について)—Strength of Reinforced Concrete Beams under the Combined Forces of Bending and Torsion—(狩野芳一と共著): 同上.
- 同上 (その 4. せん断と曲げをうける PC ばりの破壊性状について)—Part 4. A Study on the Rotation Limit of Plastic Hinge in Prestressed Concrete Members—(本岡順二郎と共著): 同上.
- H. P. シェルの精密方程式の差分解法—Analysis of H. P. Shell—(角野晃二・登坂宣好と共著): 同上.
- H. P. シェルの破壊機構 (二点支持 H. P. シェルの破壊性状)—Experimental Studies on the Failure Mode of Hyperbolic Paraboloidal Shells—(名須川良平と共著): 同上.
- 周辺固定支持された円筒殻のフーリエ級数解析—Analysis of the Cylindrical Shell with the Clumped Edge by Fonrier Series Method—(末岡禎佑と共著): 同上.
- 偏平推動殻の応力解析—Study on Shallow Translational Shells—(中村輝界と共著): 同上.
- 非閉鎖型円錐シェルの応力解析—Elastic Stresses in Unclosed Conical Shells—(氏家浩司と共著): 同上.
- 世界の大きな鋼構造物 1. 屋内野球場—The Big Steel Structure in the world-Domed Stadium U. S. A.—(名須川良平と共著): 日本鋼構造協会機関誌 (JSSC) 1, 2.
- オリンピック屋内水泳場と幾何学—Suspension Roof Structures for Tokyo Olympic Swimming Pools, and Geometry—: 数学セミナー, 1965. 9.
- ミースとサーリネン; ネルヴィとウツォン+アロプ—Mies Van der Rohe and E. Saarinen; P. L. Nervi and Jørn Utzon+O. Arup.—国際建築, 1月, 1966.
- 東京カテドラル聖マリア大聖堂の構造設計—Structural Design of Tokyo Roman Catholic Cathedral—(名須川良平と共著): 建築, 6月, 1965.
- Construction de la Cathédrale Sainte Marie—東京カトリックカテドラルの構造設計

(名須川良平と共著) : Techniques industrielles du Japan, 1965.

教授 星 埜 和 (Kano HOSHINO, Professor)

安全性と道路交通—Safety in Relation to Road Traffic—: 自動車技術, 19, 6, 1965. 6.

交通工学の現状—Traffic Engineering in Japan—: 日本機械学会講演会, 1965. 3. 基礎の支持力について—On the Bearing Power of Foundations—: 土木施工, 6, 11.

教授 丸 安 隆 和 (Takakazu MARUYASU, Professor)

航空写真判読による地上り崩壊の統計的研究—Statistical Analysis of Landslides and Related Phenomena on Aerial Photographs—: 土木学会論文集, 116, 1965. 2.

Photogrammetry in Precision Measurement of the Great Buddha at Kamakura—鎌倉大仏の精密測定に利用した写真測量—: Conservation Journal of the International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works, 10-2, 1965. 5.

Quelques applications de la photogrammètrie au relatevé précis des monuments et des trésors de la sculpture au Japon—日本において文化財の精密測定に利用した写真測量の方法—Bulletin 19. Socieité Francaise de Photogrammètrie 1965. 7.

教授 勝 田 高 司 (Takashi SHODA, Professor)

スロット型吹出口からの気流特性に関する研究—The Study of Air Motion Characteristics of Slot Type Outlet—(寺沢達二・土屋喬雄・近藤紀朗と共著) : 日本建築学会論文報告集, 413, 1965. 9.

室内気流の実験的研究—The Experimental Study on Room Air Motion—(寺沢達二・今井隆雄・土屋喬雄・近藤紀朗と共著) : 日本建築学会論文報告集, 414, 1965. 9.

箱型分岐チェンバの性能について—On the Performance of Box Plenums with Three Branch Outlets—(船橋明・寺沢達二・千葉孝男・板本守正・金国正太郎と共著) : 日本建築学会論文報告集, 425, 1965. 9.

外壁接合部の漏水に関する風雨の統計的考察—A Statistical Consideration of Wind and Rain on Waterleakage of Wall Joints—(寺沢達二・片山忠久と共著) : 日本建築学会論文報告集, 434, 1965. 9.

分岐チェンバの性能に関する研究—A Study on the Performance of Box Plenums with Three Branch Outlets—(船橋明・寺沢達二・千葉孝男・板本守正と共著) : 空気調和・衛生工学会研究論文, 39, 12, 1965. 1.

教授 久 保 慶 三 郎 (Keisaburo KUBO, Professor)

構造物の耐震設計—Anti-earthquake Design of Civil Engineering Structures—: 土木学会夏期講習会パンフレット (構造工学における最近の諸問題—講習会題目) p. 230~248, 土木学会, 1965. 8.

境川橋の動的解析—Dynamic Analysis of Sakai-gawa Highway Bridge—: 第8回地震

工学研究発表会前刷, 20~21, 土木学会, 1965. 10.

調圧水槽の耐震設計—Aseismic Design of Surging Tanks—: 第8回地震工学研究発表会前刷, p. 32~33, 土木学会, 1965. 10.

教授 池辺 陽 (Kiyoshi IKEBE, Professor)

住居のスペース・システム—Space Systems of Dwellings—: 建築文化, No. 224, 1965. 6.

能代スペースセンター—Space Center at Noshiro—: 造, 1965. 9.

日本の Modular Co-ordination の現状—Modular Co-ordination in Japan—: 日本住宅公団調査研究期報, No. 14, 1965. 10.

設計手法 (20年間の発展)—Design Methods (Development of 20 years): 建築雑誌, 1965. 12.

住居をつくり, 住居を使う, そして住居は人間を支え, 人間を変える (住宅設計における私の方法)—My Methods in Dwelling Design—: 新建築, 1966. 1.

すまいに石綿スレートを(使い方のこつ)—Asbest Slate for Housing—: 波形石綿スレート協会, 石綿セメントボード協会テキスト.

教授 井口 昌平 (Syōhei INOKUTI, Professor)

国際水文学 10 年計画第 1 回調整理事会—The First Session of the Co-ordinating Council of the International Hydrological Decade—: 水利科学, 44, 1965. 8.

砂礫堆上の流れについて—On the Characteristics of the Stream Flow in Alluvial Channels with Developed Diagonal Bars—(鮎川登・青木佑久・紀陸富信と共著): 土木学会第 20 回年次学術講演会, 1965. 5.

助教授 三木五三郎 (Gosaburo MIKI, Associate Professor)

関東地方における土質事情—On the Engineering Soil Properties Occuring in the Kantō District—: 土と基礎, 13, 4, 1~2, 1965. 4.

原地盤状態再現モールドを用いたグラウチングの基礎的研究—Fundamental Study on Grouting Methods Using Large Molds—: 土木学会第 20 回年次学術講演会講演概要, 1965. 5.

新しい室内ベーン試験機の試作と, それを用いたきわめてやわらかい土のせん断特性の試験結果について—On the New Laboratory Vane Shear Apparatus—(今村芳徳・佐藤剛司・後藤武夫と共著): 土質工学会第 10 回シンポジウム, 161~164, 1965. 11.

助教授 田中 尚 (Hisashi TANAKA, Associate Professor)

構造物の極限解析—Limit Analysis of Structures—: 構造学大系, 彰国社, 1966. 3.

平板の解の唯一性の条件—Uniqueness Criterion of Plates—(高梨晃一と共著): 日本建洋学会論文報告集, 号外, p. 171, 1965. 9.

H 型鋼の仕口に関する実験的研究—Experimental Analysis of Connections—(福島暁男
林永全と共著): 同上, p. 285, 1965. 9.

助教授 石井 聖光 (Kiyoteru ISHII, Associate Professor)

日光東照宮の“鳴き竜”復元に関する調査研究—Fundamental Study on Reconstruction
of “Roaring Dragon” (a kind of flutter echoes) in Nikko Shrine—(平野興彦と共
著): 日本音響学会研究発表会講演論文集, 111, 1965. 5.

隧道を吸音処理することによる地下鉄車内騒音防止に関する研究—Experimental Study
on Noise Reduction in the Train of Under Ground Railway by Sound Absorption
Treatment on the wall of Tunnel—(風巻友治・朝生周二と共著): 日本音響学会研
究発表会講演論文集, 227, 1965. 5.

国立屋内総合競技場(代々木)の音響について—Acoustics of National Gymnasium and
its Annex in Yoyogi Tokyo.—(平野興彦・朝生周二と共著) 日本音響学会研究発表
会講演論文集, 113, 1965. 5.

Acoustics of The National Gymnasium of Tokyo Olympiad (1964)—東京オリンピック
の屋内総合競技場の音響について—: 5 th International Congress on Acoustics (Liege
Belgium) G 14, Sept. 1965.

東京カテドラル聖マリア大聖堂の音響について—Acoustics of St. Mary's Cathedral,
Tokyo—(平野興彦と共著): 日本音響学会研究発表会講演論文集, 177, 1965. 10.

超音波計測(空中)—Application of Ultrasonics Measurements in Air—: 電通学誌,
48, 11, 1857, 1965. 11.

助教授 村松貞次郎 (Teijiro MURAMATSU, Associate Professor)

日本近代建築史ノート—A Note of the Japanese Modern Architecture—: 世界書院,
1965. 9.

日本建築家山脈—Biographical Studies on Japanese modern Architects—: 鹿島研究所
出版会, 1965. 10.

助教授 小林 一輔 (Kazusuke KOBAYASHI, Associate Professor)

鉄筋コンクリート梁の疲労破壊について—Fatigue Failure of Reinforced Concrete
Beams (丸安隆和・伊藤利治・工藤幸紀と共著): 土木学会, 第 2 回異形鉄筋に関する
シンポジウム講演概要, 1965. 4.

鉄筋コンクリート梁の重ね継手に関する実験—Laboratory Tests of Lapped Bar Splices
in Concrete Beams—(丸安隆和・伊藤利治と共著): 同上.

軽量コンクリートの支圧強度—Bearing Strength of Lightweight Aggregate Concrete—
(伊藤利治・工藤幸紀と共著): 第 20 回土木学会年次講演会概要, 1965. 5.

軽量骨材コンクリートの乾燥状態における圧縮強度—Effect of Continuous Drying on
the Compressive Strength of Lightweight Aggregate Concrete—(伊藤利治と共著):
セメント・コンクリート, 227, p. 11~13, 1966. 1.

講師 越 正毅 (Masaki KOSHI, Lecturer)

交通信号の路線系統化について—Cycle and Offsets for Signal Coordinations—: 「道路」354~365, 1965. 5.

路面のすべり—Skid Resistance of Road Surface—(市原薫と共著): 交通工学シリーズ 21 (2), 技術書院.

E. 研究発表会, 講演会, 講習会など

生研講習会

工業技術に関する新しい学理と技術, その応用などにつき広く産業界の研究者, 技術者を対象としたもので, 今回は第3回で今後継続して行なわれる.

1. 主 催: 財団法人生産技術研究奨励会
後 援: 東京大学生産技術研究所
2. 場 所: 所内大会議室
3. 日 時: 昭和40年6月24日~26日 10.00~16.00
4. 受講者: 63名
5. 講義内容: テーマ「近代材料についての諸問題—金属を中心として—」題目は下表のとおり.

講 義 内 容	講 師	摘 要
1. 総論および軽金属材料	教授 加藤 正夫 (工博)	第1日
2. 粉末合金とその応用	助教授 原 善四郎 (")	"
3. 金属材料非破壊検査について	教授 一色 貞文 (")	"
4. 鉄鋼材料について	教授 雀部 高雄 (")	第2日
5. 金属表面処理について	教授 浅原 照三 (")	"
6. 金属材料に対する有機材料について	教授 永井 芳男 (")	"
7. 時効性合金材料について	助教授 西川 精一 (")	第3日
8. 最近の機器分析	助教授 武藤 義一 (")	"